



EDEN 国語講座/第12回

【今回のねらい】

国語講座第12回は「詩・俳句・短歌」です。

難しく見える問題も、読解問題と同じく解き方を身につけることで攻略していきます！

次の詩を読んで、後の問いに答えなさい。

ぞうきん

まぐみちお

雨の日に帰ってくるよ
玄関でぞうきんが待っていてくれる
ぞうきんでございます
という したしげな顔で
自分でありたくなかったのでもないのに

ついでの間までは
シャツでございます という顔で
私に着られていた
まるで私の
ひふでもあるように やさしく
自分でぞうなりたかったのでもないのに

たぶん もともとは
アメリカか どこかで
風と太陽にほほえんでいたワタの花が

そのうちに
灰でございます という顔で灰になり
無いのでございます という顔で
無くなっているのかしら
私たちとのこんな思い出もいっしょに
自分ではなんにも知らないでいるうちに

ぞうきんよ！

「問一」

―線部「自分でそうなりたかったのでもない」とありますが、そのことが表れている表現を次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア シャツでございませす という顔で

イ 私に着られていた

ウ まるで私の ひふでももあるかのように ちやほこへ

「問二」

第一連から第四連の中で、第二連だけが他と違った表現になっています。

(1) どのように違いますか。

(2) なぜ違う表現になっているのですか。

次の短歌を読んで、句切れの位置に「/」をいれましょう。ない場合は下の()にxと記入しなさい。

1 ふるさとの なまりなつかし 停車場の 人ごみの中に そを聴きにゆく()

2 木に花咲き 君わが妻と ならむ日の 四月なかなか 遠くもあるかな()

3 金色の 小さき鳥の かたちして 銀杏散るなり 夕日の岡に

次の俳句を読んで、季語に○をつけて句切れの位置に「/」をいれましょう。句切れがない場合は下の()にxと記入しなさい。

1 古池や かはず飛び込む 水の音

2 雪解けて 村いっばいの 子どもかな

3 柿食へば 鐘が鳴るなり 法隆寺

4 青蛙 おのれもペンキ ぬりたてか